

歯科医師石櫻会会報

第14号

発行 ■ 歯科医師石櫻会事務局 〒020-0837 盛岡市津志田町2-1-70 くまがい歯科クリニック内 TEL/FAX: 019-632-1188 題字: 横澤昭平



「歯科医師石櫻会会長就任のご挨拶」

歯科医師石櫻会
会長 中野廣一

桜花爛漫の候、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

令和3年度の総会（書面表決）においてご承認いただき、小山田榮二前会長の後を受け、歯科医師石櫻会第8代会長に就任させていただくことになりました。もとより微力非才ではありますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

令和元年11月に中国武漢市で最初に確認された新型コロナウイルス感染症は2年半を経ていまだに世界中で猛威を振るっております。

一昨年、昨年と感染防止の観点から、総会は書面表決、講演会と懇親会は開催を中止とさせて頂いておりました。特に講演会と懇親会は、年に一度、同じ石櫻の学舎を巣立った者同士、胸襟を開いてわだかまり無く語り合える場にて、楽しみにしておられた諸兄弟も多かったことと思いますが誠に残念でなりません。本年も開催が危ぶまれる所ではありますが、その分会報の内容を充実させようと考えております。ちなみに前号（13号）は和田健一郎新校長先生（新30回生）に、本号（14号）は、櫻井滋先生（新26回生：前岩手医科大学医学部睡眠医療学科教授、現岩手県新型コロナウイルス感染症対策専門委員会委員長）に「新型コロナウイルスと対峙するまで -私のあゆみと石櫻精神-」と題してご寄稿いただきました。時宜を得た内容にてご一読いただけますと幸いです。

さて、本部の石櫻同窓会は令和5年に創立90周年、母校は令和8年に創立100周年を迎えます。本会会則に「本会は母校の発展に寄与し、会員相互の親睦と厚生福祉を図るを目的とする」とありますので、母校の慶事に向けて、本会としても何らかの祝意を表したいと考えております。

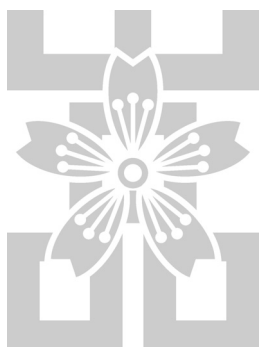
石櫻同窓生の特長は、長い伝統に裏打ちされた一体感のある私学ならではの絆の強さ、連帯感の強さであり、同窓会報やホームページを見ても、各界、各分野、各職種において石櫻会を結成している例が多々あります。業界を越えての協力や情報の交換なども活発であると仄聞しております。

小生なども岩中・岩高出身と聞いただけで職種や年齢を問わず何となく親近感を抱いてしまいます。意識はしていないものの「石櫻の絆」が心の奥底にしっかりと生きついているようです。

このコロナ禍、会員の皆様には、感染防止対策や受診控えなどの影響で、日常の診療に大きな影響を受けていることと拝察いたします。1日も早く平穏な日常が戻り、皆様と歓談できる日が来ることを心から願っております。

掲載内容

- ・ 巻頭言
- ・ 新型コロナウイルスと対峙するまで
-私のあゆみと石櫻精神-
岩手県新型コロナウイルス感染症対策専門委員会委員長
櫻井 滋
- ・ 役員名簿
- ・ 幹事会記録
- ・ 事務局からのお知らせ
- ・ 編集後記



新型コロナ感染症と対峙するまで

—私のあゆみと石櫻精神—



感染制御医 櫻井 滋

岩手県新型コロナ感染症対策専門委員会委員長

岩手高等学校 新26回生(昭和49年卒) 前 岩手医科大学 医学部 教授

歯科医師石櫻会の皆様におかれましては、日々のご診療はもとより日頃から母校発展のためにご尽力いただき、誠にご苦労様です。

私は岩高新26期の卒業生として、“消失前”の木造校舎に学びました。思えば岩高入学の機会を得たのは、当時の岩高校長で遠縁にあたる山中順三翁の薦めによるものでしたが、どちらかと言えば課外活動専門の中学時代を過ごし、県立高校受験にも失敗した、態度の悪い甥を鍛え直すという意味があったろうと思います。中学2年時に本籍地住田町を離れ、単身盛岡市での下宿生活を満喫し、岩高在学中はバイク通学で美術や写真の部活動、山岳部のメンバー達との交流、放送局でのアルバイトなどに明け暮れ、勉学とは真逆の生活を謳歌していたものです。かろうじて卒業は許されたものの、当然の帰結として学業成績は振るわず、東京にける1年間の浪人生活を経て、当時交通の便が悪い点では、岩手に引けを取らなかった北陸金沢の地に逃げるように生活の場を移したのです。もとより、医師を目指そうなどという崇高な願望はなく、代々の医業を継承させようとする周辺環境に流されて、たどり着いた場所でした。

しかし、縁あって多くの尊敬すべき師に恵まれ、岩手でのしごらみや評価を忘れ、本来の医学と接する生活にありつきました。特に曾根潮児先生(岩手医大に奉職した経験がお有りでしたが)による人体解剖実習での経験を経て、自分の意識が明らかに変わったことを覚えています。

幸い、可もなく不可もなく卒業証書と医師免許を賜り、岩手に戻るべきかと考えていた時期に、胸部心臓血管外科からの強い誘いがあり、卒後研修を心臓外科医して行くことになりました。同科では、コロナ禍で有名になった「人工肺ECMO」の基本技術である体外循環を学び、同時にローテートした麻酔科

で呼吸循環管理を学ぶうちに集中治療を志すようになりました。外科系ICUでの研修を終えるころ、呼吸器内科の大谷信夫教授からの誘いを受け、当時日本では例のない、呼吸不全専門の集中治療室(RCU)の立ち上げに挑戦することとなりました。とは言え基礎研修を終えたばかりの新米外科医の私には、治療的介入の基礎技能はあっても、病態の解析や診断の能力が欠けていました。そのため、当時から臨床研修で名を馳せていた沖縄県立中部病院呼吸器科の宮城征四郎先生に師事することになったのです。

当時の沖縄は米国医療の影響が残り、頻繁に外国からの指導医が訪れる場所でした。英語もろくに使えない私には過剰な刺激でしたが、結果的に様々な薫陶を受けることとなりました。中部病院には感染症診療に詳しい喜捨場先生が在籍しておられ、後に自ら手引書¹を執筆することとなるグラム染色による細菌感染症の診断など、国内の研修では接することのなかった第一線の臨床診断技術に触れ、国内に居ながら米国式を体験する機会となりました。また海外の著名な指導者に多数お会いすることができ、米国での研鑽に繋がりました。

これら一連の経験は日本に無かった医学や医療の捉え方を知る機会となり、医師人生のテーマとなった「内科医による呼吸管理=intensivist」とそれに付随する「睡眠中の呼吸障害=sleep disordered breathing」の診療に取り組むこととなったのです。また、感染症や臨床検査との関わりもより深くなり、岩手医大に移籍してからは幸いにも睡眠医療学科を開設いただき教授職を拝命するとともに「院内感染制御=infection control」という新たな課題にも取り組むこととなり、感染制御医(ICD)として院内感染対策マニュアルの編纂や感染制御部の立ち上げにも関わりました。

櫻井 滋(さくらい・しげる)

略歴 (経歴) 金沢医科大学医学部卒、同大学胸部心臓血管外科・麻酔科研修後、同大学医学部呼吸器内科学教室入局。同講師、沖縄県立中部病院呼吸器科、ワシントン州立大学留学を経て、岩手医科大学医学部第三内科講師、同大学臨床検査医学講座准教授、同附属病院感染制御部部长、同大学医学部睡眠医療学科教授・学科長、令和3年3月をもって同大学を定年退職。

(現職) 岩手県新型コロナウィルス感染症専門委員会委員長、日本環境感染学会災害時感染制御検討委員会副委員長、みちのく愛隣協会理事・危機管理担当顧問など

(資格等) 日本内科学会認定内科医、日本呼吸器学会呼吸器内科専門医、日本睡眠学会睡眠医療専門医、日本感染症学会推薦感染制御医(ICD)など

東日本大震災当時は、岩手県内の感染制御にかかる活動にも従事しており、日本で初めての災害時感染対策支援チームの創設に関わったことから、日本環境感染学会(JSIPC)の災害時感染制御支援事業の一翼を担うこととなり「大規模自然災害の被災地における感染制御マネージメントの手引き」²⁾の編纂を担当しました。このマニュアルは多方面で評価され、感染制御支援の全国チームである「災害時感染制御支援チーム(DICT)」を率いる立場となったのです。これらの実績とDICTは厚生労働省の防災業務計画³⁾にも明記されることとなり、コロナ禍の先駆けとなったダイヤモンド・プリンセス号事案では同省からの依頼を受けて急遽乗船し、感染対策に関する助言を求められ、一定の役割を果たすことができました。

当時の詳細な状況は厚生労働副大臣であった橋本岳 衆議院議員の報告⁴⁾に詳しいところですが、小生自身、同書に寄稿させていただきましたので、ご興味のある方は一度手に取っていただければ幸いです。

以上のような歩みと活動が岩手県新型コロナウイルス感染症対策専門委員会委員を務めるといふ、現在の大役を担うことに繋がったと思います。

私こと、令和3年3月に大学を退き、もはや隠居の身ではありますが感染制御担当者としての職責を全うすべく、まさに御影石をも貫く石櫻精神をもって令和4年の現在も困難な状況と対峙している次第です。

新型コロナウイルスに限らず、これまでも多くの感染症が人類を襲い、後藤新平をはじめ、県人についても数多くの先人が戦いに勝利してきました。我々も、近い将来に必ず克服する日がやってきます。

個人的には、このウイルスが今後とも消滅することはありません、単に社会生活に影響を与えない存在として共生しうる時期は近いと考えております。早期の克服にはこの感染症に対する正しい理解と一般診療時における基本技術として、医療感染対策に関する最新知識を得ていただくようお願いし、取り乱すことなく冷静な態度で接することが肝要と考えております。

諸先生には、同窓として様々なご協力を賜り心から感謝申し上げます、ともにコロナ以後の平穏な世界の実現に向かって歩んでまいりたいと存じます。

甚だ勝手な自叙伝のような構成になりましたが、この機会に小生についてお知りいただくとともに、今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。

¹⁾メジカルビュー社刊「治療に役立つ グラム染色」
ISBN 978-4-7583-1772-6

<https://www.medicalview.co.jp/catalog/search.php?id=detail&code=ISBN978-4-7583-1772-6>

²⁾大規模自然災害の被災地における感染制御マネージメントの手引き

http://www.kankyokansen.org/modules/publication/index.php?content_id=16

³⁾厚生労働省防災業務計画
<https://www.mhlw.go.jp/content/000752021.pdf>

⁴⁾新型コロナウイルス感染症と対峙したダイヤモンド・プリンセス号の四週間

ISBN 978-4-8192-0261-9
<https://books.rakuten.co.jp/rb/16998651/>



ダイヤモンド・プリンセス号の船内にて 2020/2/19 (左から、著者、橋本議員、長崎大学泉川公一教授) 副大臣自ら手指衛生薬を携帯している。

役員名簿

(任期：令和3年4月1日～令和5年3月31日)

会 長	中野廣一
副会長	赤坂俊彦 (会計兼任)
幹事長	西郷史郎 (広報兼任)
幹 事	
学 術	青木修治, 上原 豊, 岡田伸男
会 計	赤坂俊彦
庶 務	熊谷哲也, 大久保卓也, 小山田晃
名 簿	波紫修一, 高橋賢司, 岡田伸男 (学術兼任)
記 録	亀田幸宏
広 報	関 克典, 西郷史郎, 田中崇一
地 区	道又 元, 佐々木正博
監 事	村上 修, 小豆嶋正典
顧 問	岡田宗二, 横澤昭平, 山田康平, 田中健一 小山田榮二 (敬称略)

幹事会記録 (抜粋)

令和3年度限定臨時幹事会

日時：令和4年2月19日(土) 13:00~13:40 Web会議
 出席者：中野廣一会長、西郷史郎幹事長(広報幹事兼任)、赤坂俊彦会計幹事、上原 豊学術幹事、熊谷哲也庶務幹事、波紫修一名簿担当幹事、岡田伸男幹事

1. 報告事項

(1) 事業報告・訃報

(令和3年2月15日~令和4年2月19日)

令和3年2月15日令和2年度第1回三役会開催。2月24日令和2年度第2回幹事会(書面会議)開催、令和3年度総会・懇親会の中止を決定(新型コロナウイルス感染症蔓延のため)。4月26日第13号会報、総会・講演会中止案内等発送。7月20日伊保内利一先生(新19回生)ご逝去。8月15日佐々木正博先生(新25回生)ご尊父様ご逝去。9月4日櫻井滋先生(新26回生)に第14号会報への寄稿文依頼。12月30日横澤昭平先生(新12回生)ご令室様ご逝去。

令和4年1月5日八重樫良昌先生(新27回生)ご逝去。1月21日熊谷哲也先生(新40回生)ご尊父様ご逝去。2月19日令和3年度第1回限定臨時幹事会(Web会議)3月7日三田透先生(新20回生)ご逝去。

(2) 会計報告

令和3年度歯科医師石櫻会収支決算報告会計決算報告
 <収入>収入合計 215,006 円(内訳：当日会費 5,000×0=0、当日会費(学生)3,000×0=0、年会費 5,000×0=0、口座振り込み費 5,000×14=70,000、自動振替 5,000×29=145,000、雑収入(祝儀)0、臨時セミナー会費0、決算利息0)

<支出>支出合計 160,251 円(内訳：資料作成費等 106,431、香典(4件) 250,000、生花 22,000、自動振替手数料 6,820)

<収支> 過年度繰越金合計 1,301,915 円
 令和3年度繰越金△54,755 円
 繰越金合計 1,356,670 円

(3) 第14号会報関連報告

第14号会報新捗状況報告、4月中に印刷会社に他発送物とともに入稿、印刷会社から直接会員へ発送予定(約130部)。第14号会報から、構成についても印刷会社に依頼することとする。

(4) 会員名簿関連報告

令和元年の総会決議により名簿の発行は4年毎に行う。第14号会報と共に発送予定。次回の発行は2026年(令和8年)を予定。

(5) 役員指名関連報告(中野廣一会長)

中野廣一会長より、「会則第10条副会長、幹事長及び幹事は会長が指名する。顧問は役員会で推薦し総会に報告し会長が委嘱する。」に従い、中野会長から下記の案が示された(任期：令和3年4月1日~令和5年3月31日)。

会長中野廣一、副会長赤坂俊彦(会計兼任)、幹事長西郷史郎(広報兼任)。幹事として、学術担当青木修治、上原豊、岡田伸男、会計担当赤坂俊彦、庶務担当熊谷哲也、大久保卓也、小山田晃、名簿担当波紫修一、高橋賢司、岡田伸男(学術兼任)、記録担当亀田幸宏、広報担当関克典、西郷史郎、田中崇一。地区担当道又元、佐々木正博。監事として、村上修、小豆嶋正典。顧問には、岡田宗二、横澤昭平、山田康平、田中健一、小山田榮二。なお、小山田榮二前会長の顧問就任について、全会一致で推薦され、全体幹事会に諮ることとなった。

(6) その他

中野廣一会長より、2月7日に田中健一顧問から、本部石櫻同窓会創立90周年記念事業の募金趣意書(素案)、募金要項(素案)が示され、本会会員に案内して欲しい旨の依頼があった。募金の期限が令和5年7月末なので、令和5年4月発行予定の会報15号に同封することとした。

2. 審議事項

(1) 令和3年度第1回幹事会の開催形式に関する件

新型コロナウイルス感染症の影響による、感染防止の観点から当該の幹事会(全体幹事会)は実開催を見送り、書面会議にすることが妥当とする案が了承された。

(2) 令和4年度総会等に関する件

上記1)と同様の理由で、令和4年度の総会(講演会、懇親会を含む)の実開催は見送り、書面決議(議決権行使書による決議)とすることが妥当とする案が本会として了承された。また、講演会については、令和2年、3年に決定した同講師(岡田伸男先生、竹田浩人先生)とし、さらに1年持ち越して令和5年に実開催とすることが本臨時会として了承された。

これに伴い、次号会報(第15号)の講演後抄録掲載枠には「臨床トビックス・ヒント(仮題)」コーナーを臨時に新設して、会員からの寄稿を募ってはどうかとの案が出された。

(3) 令和5年度総会、講演会等に関する件(実開催予定)

令和5年6月10日(土)内部講師1：岡田伸男先生(新44回生)、内部講師2：竹田浩人先生(新33回生)

(4) 令和6年度総会、講演会等に関する件(実開催予定)

令和6年6月8日(土)内部講師：関克典先生(新34回生)外部講師：検討中

(5) その他

新型コロナウイルス感染症が終息(小康)した暁には、和田健一郎新校長を招いて臨時講演会(校長就任祝賀会併催)を開催することが本臨時会として了承された。

岩手中・高等学校の石櫻同窓会は令和5年に創立90周年、母校は令和8年に創立100周年を迎える。本会会則に「本会は母校の発展に寄与し、会員相互の親睦と厚生福祉を図ることを目的とする」とあり、母校の慶事に向けて、本会としても何らかの祝意を表したい旨の会長からの提案があり、本臨時会として了承された。具体策等については改めて協議することとなった

令和3年度第1回幹事会

日時：令和4年2月21日(月) [書面会議]
 参加者：会長、副会長、幹事長、全幹事、両監事、全顧問
 令和3年度限定臨時幹事会後、その内容について、全役員での書面会議を開催、承認された。(文責：西郷史郎)

事務局からのお知らせ

■ 会計からのお願い

年会費のご納入が未だでございましたら、下記口座へ5,000円のお振込をお願いいたします。銀行口座からの自動振替制度のご利用が便利です。事務業務も大変簡素化され助かりますので、お手続きをよろしくお願いいたします。

■ 「銀行振込み口座」

東北銀行 大通支店(支店コード103)
 (普通) 3162801 歯科医師石櫻会会計赤坂俊彦

■ 「口座振替依頼書」のお手続きの問合せ・送付先
 〒020-0016 盛岡市名須川町29-2 赤坂病院歯科
 歯科医師石櫻会 会計 赤坂俊彦 宛
 TEL: 019-624-1225 FAX: 019-623-1825

■ みなさまの声をお寄せ下さい

本会についてのご意見、ご要望、会員名簿のご訂正や名簿に掲載されていない岩手中高卒の歯科医師情報、会員のお悔やみ情報などがありましたら事務局までお知らせください。

歯科医師石櫻会事務局

〒020-0837 盛岡市津志田町2-1-70
 くまがい歯科クリニック内
 TEL/FAX: 019-632-1188
 E-mail:tetsu-tetsu@wish.ocn.ne.jp

編集後記

新型コロナウイルス感染拡大は収まることなく、現在におきましても、様々な会合・各種会議等の中止やweb、書面等での開催等が余儀なくされています。歯科医師石櫻会におきましても、中野会長のもと、少しでも早く、以前の様な会の運営が行えるようになることを役員一同、願っております。(西郷史郎記)